

経験的知見と科学的知見を融合した 効果的・効率的な校内研修リソースの開発

調査の概要

◆課題認識

知識・技能の習得に
留まりがちな授業が多い

学びづらさを感じている
子どもがいる

よい授業をしたいが改善策を
見いだせない教員がいる

◆調査研究の目的

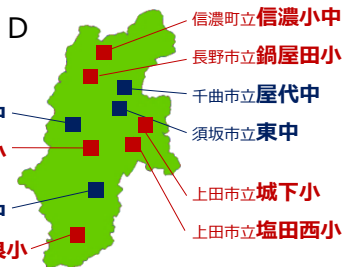
教員同士の交流によって伝達可能な経験的知見と客観的根拠に基づいた科学的知見を融合した授業づくり、学級づくりを推進する効果的・効率的な研修リソースの開発

◆調査研究の方法

- A これからの時代の教員に求められる資質能力の向上を目指す**信州型UD 2.0の構築**
- B 経験年数の異なる教員同士のチーム研修を促進する**オンライン動画教材の開発**

●信州型UD
推進校

- 松川村立松川中
- 松本市立明善小
- 箕輪町立箕輪中
- 飯田市立伊賀良小



◆調査研究校

信州型UD推進校（県内10校指定）

◆現状

信州型UD 1.0を構築済（H30年度調査研究）

取組のポイント・成果

A これからの時代の教員に求められる資質能力の向上を目指す信州型UD 2.0の構築

◆ポイント

- ① UD推進校による科学的知見の活用
- ② アドバイザーボードによる助言
- ③ UDカードを10枚から20枚へ



信州型UD推進校による科学的知見を活用した実践の成果をUD 2.0の構築に反映。



アドバイザーボードの講義等から最新の知見を収集し、信州型UD 2.0の構築に反映。

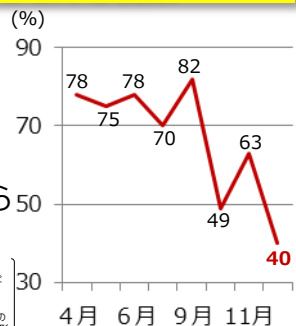


①と②の取組の成果を生かし、研修ツールであるUDカードを追加作成。

◆成果

- ①（例）補足的・集中的指導を行う児童の割合が78%から40%へ減少

・「R1信州型UD推進校A小学校のデータより。
・A小学校では、特殊首節の習得に低学年からつまずきを示すことがあるとの科学的根拠に基づき、子どもが学習につまずく前の支援を目的し、「多層指導ツール」を導入。
・右のグラフは、アセスメントによって明らかとなった通常の学級内での補足的な指導と配慮比③「集中的・柔軟な形態により特化した指導」が効果的と判断される児童の割合。



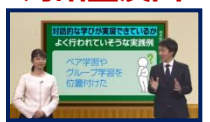
B 経験年数の異なる教員同士のチーム研修を推進するオンライン動画教材の制作

◆ポイント

- ④ 動画研修シリーズを5本から21本へ
- ⑤ 説明型から対話型演出へ
- ⑥ HP公表のみから体験型へ



信州型UD（上図）の20の着眼点全てに対応した動画教材が完成。



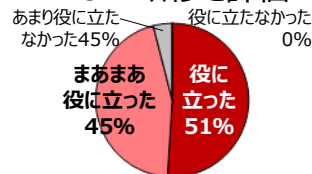
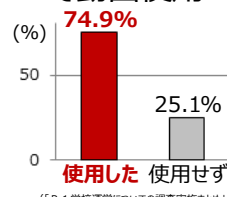
動画を対話型で進行し、教員が興味をもって学べるように演出を工夫。



1月実施「学びの改革フォーラムながの」にて、全参加者で動画教材のUD研修を体験。

◆成果

- ② 74.9%の学校で動画使用
- ③ 体験した96%がUD研修を評価



（「R1学校運営についての調査実施まとめ」より）

（「R1学びの改革フォーラムながのの参加者アンケート～UD研修は役立ちましたか～」より）

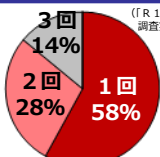
今後の課題

◆研修の継続性

・動画を使用した研修回数
の調査において半数以上の
学校が1回のみ

→『研究主任サポートブック』の効果的な運用

信州型UDに基づく多様な研修プランを紹介し、研究主任による研修の自立的な企画を支援。



（「R1学校運営についての調査実施まとめ」より）



（『研究主任サポートブック』より）

◆若手教員のための研修コンテンツの開発

・UD研修では互いの経験的知見を交流する場面があるが、経験が少ない若手教員にとっては「聞くだけ」に留まりがちである。
→『信州型UDノート（仮）』の制作

信州型UD推進校の実践事例をまとめ、若手教員が日常的に参考にできるようなコンテンツを制作。

